

平成30年（2018年）12月期 第2四半期決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

（証券コード：3386）

2018.8.7

www.cosmobio.co.jp



目次



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

1. 会社概要と事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 3
2. 2018年当社グループを取り巻く事業環境・・ p.11
3. 2018年上期の取り組み成果と
今後の取り組み・・・・・・・・ p.16
4. 決算の概要および業績予想について・・ p.24

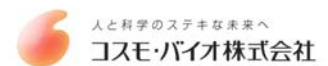
1. 会社概要と事業の内容

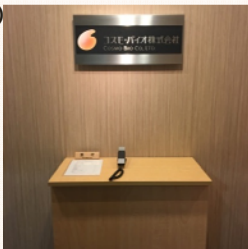
www.cosmobio.co.jp

© 2018 Cosmo Bio Co., Ltd.

3

会社概要



社名：	コスモ・バイオ株式会社	
本社所在地：	東京都江東区東陽二丁目2番20号	
代表者：	代表取締役社長 櫻井 治久	
設立：	1983年8月25日	
資本金：	918百万円	
事業内容：	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の仕入（一部自社製造）及び国内・海外販売	
従業員数：	連結：130名 個別：101名（2018年6月30日時点）	
連結子会社：	ビーエム機器株式会社 COSMO BIO USA, INC.（2018年より連結開始）	
非連結子会社：	株式会社プロテインテック・ジャパン	

© 2018 Cosmo Bio Co., Ltd.

4

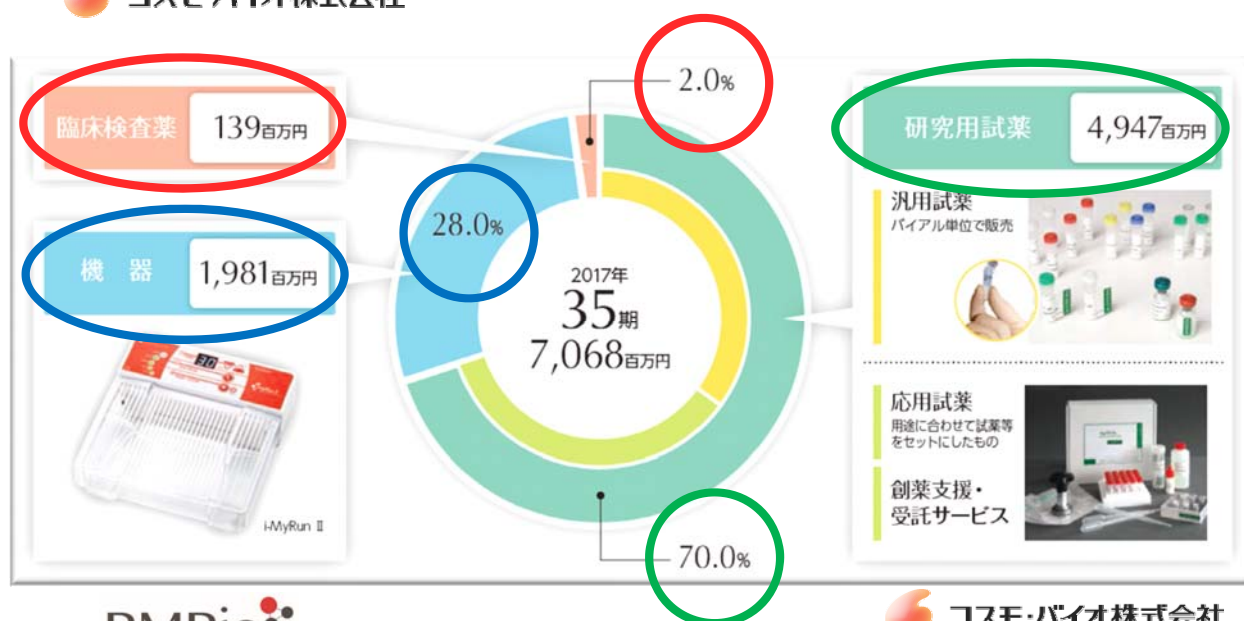
事業の内容 – 商流 –

研究者と仕入先を結ぶ
コスモ・バイオ



事業の内容 – 取扱い商品 –

コスモ・バイオ株式会社



実験・研究・測定のために使われる薬剤

化学物質以外にも、生物の体内から取り出した成分（タンパク質や細胞、核酸等）やそれを反応させるための溶液など、多種類の試薬があります。

なかでも・・・**ライフサイエンス用（生化学用）**は、

- ・生物から抽出したもの、あるいはその物質を合成したもの。
- ・数10マイクログラムなど、目に見えないくらい少量で提供される。
（体内を模した実験をするにあたり、そのくらいの量で充分足りる）



逆にいうと、体の中のこんなに少ない量の成分が何かしらのはたらきをしているということ。

《試薬の分類イメージ》



実験・研究・測定で使われる

- ・測定機器
- ・反应用機器
- ・手袋
- ・ピペット
- ・プレート
- ・チップ
- ・・・・



マイクロウェルプレート



チューブ

BIORUPTOR II



電気泳動装置



超音波破碎装置



事業の内容 – 商社機能・メーカー機能 –

商 社 機 能

世界中の約**600社**の仕入先



世界各地にある最先端の商品を導入し、
「分かりやすさ」「安心・安全」を
付加価値として研究者の皆様に提供

メーカ－機 能



札幌事業部にて
自社品の開発・製造
自社受託サービスの提供

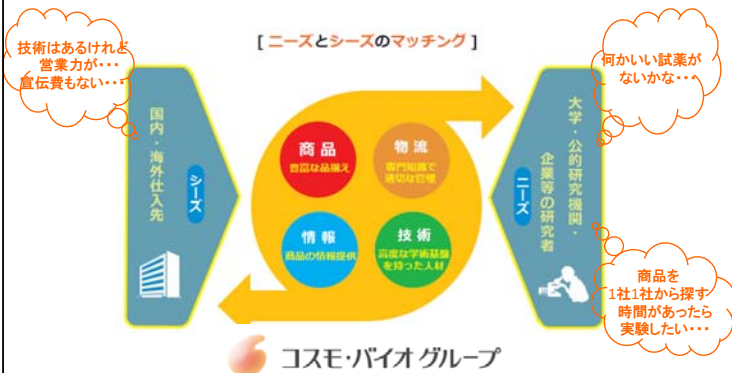
商品提供で充足できないニーズに
対し、自ら作る、サービスを提供
することでソリューションを提供

研究者に最新の商品とサービスでソリューションを提供

事業の特徴 – 役割 –

●膨大な商品と多彩なユーザーニーズの「マッチング」

世界のメーカーから仕入れる膨大な商品ラインアップ
(=シーズ)の中から、研究者にとって有用な商品
(=ニーズ)を選び出し、タイムリーにお届けする。
商品とユーザーの「マッチング」こそが、最も重要な
私たちの役割であり真髄。
これを実現させ、商品購入前のお問い合わせから購入
後のフォローまで、迅速かつ丁寧に対応。



●適切な温度管理

試薬の多くは、タンパク質や核酸・細胞など、
生物由来の物質、いわゆるナマモノであり、仕
入から保管、お届けまで厳重な温度管理が必
要。各種温度帯を備えた倉庫、入出荷ノウハウ
により、適切な温度管理で商品をお届け。



●関係法令・規制

◆動物検疫
商品が動物由来、もしくは動物由来の成分を含
む場合、輸入・輸出の際には動物検疫対象とな
る。専門知識により、迅速に対応。
◆使用・保管への注意
商品には、毒劇物・薬物・危険物・遺伝子組換
え物質等の、法律で取扱いが厳しく定められて
いるもの、有機溶媒など廃棄規制があるものが
あり、商品取扱いに関する情報も適切に提供。

2. 2018年当社グループを取り巻く事業環境

www.cosmobio.co.jp

2018年事業環境について



当社グループを取巻く環境

大学・公的研究機関
研究費動向

企業研究費動向

為替相場

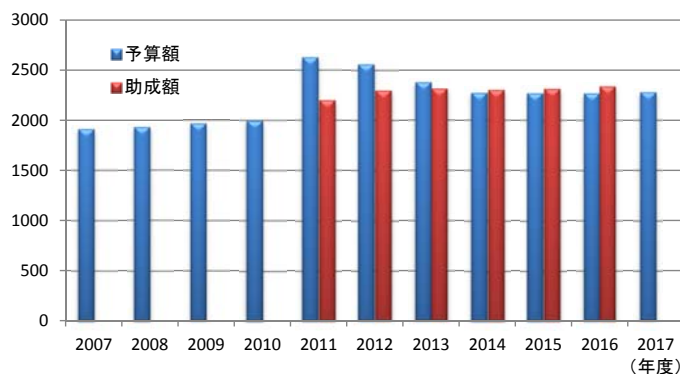
競合会社

2018年事業環境について

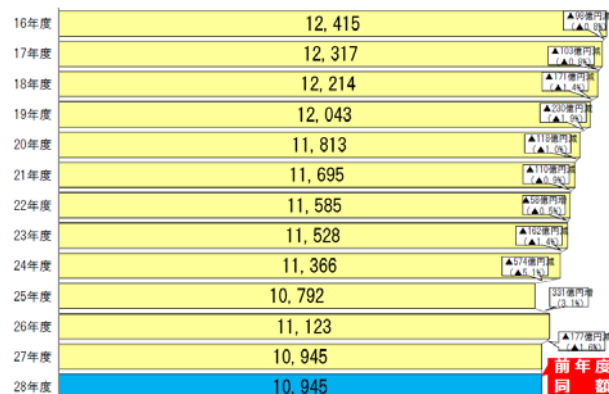
大学・公的研究機関研究費動向

政府予算はほぼ横ばい傾向が続いている。競争的資金のひとつである科研費については、2018年度予算はまだ最終的な公表はされておらず、2017年度では対2016年度比11億円（0.4%）増額の2,284億円。各大学・公的研究機関の予算執行の鈍化がみられる。また、近年のiPS研究の臨床応用開始に伴い、予算配分が再生医療関連に偏りがちな傾向がみられる。

科研費の予算額・助成額の推移（単位：億円）



国立大学法人運営交付金予算額の推移（単位：億円）



文部科学省HPより

2018年事業環境について

企業研究費動向

医薬品企業関連においては、大手製薬企業のM&A等による経営合理化により、研究開発費は縮小の可能性あり。一方、研究開発機能の海外移転については収束傾向。基礎研究分野の資金投資は微増から横ばい傾向が継続すると予想。

競合会社

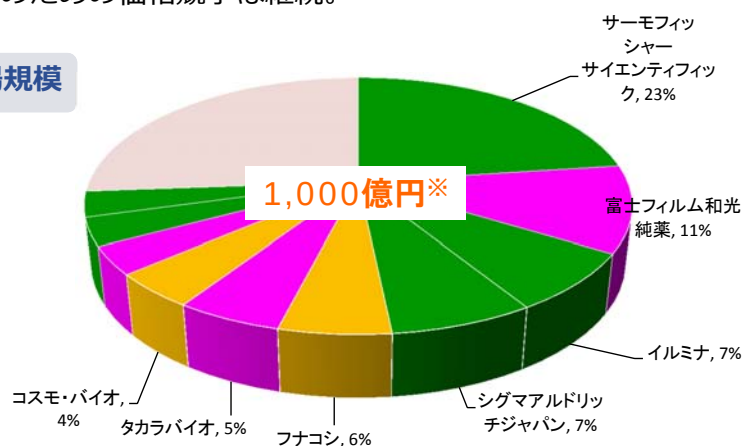
市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争は継続。

ライフサイエンス研究用試薬の市場規模

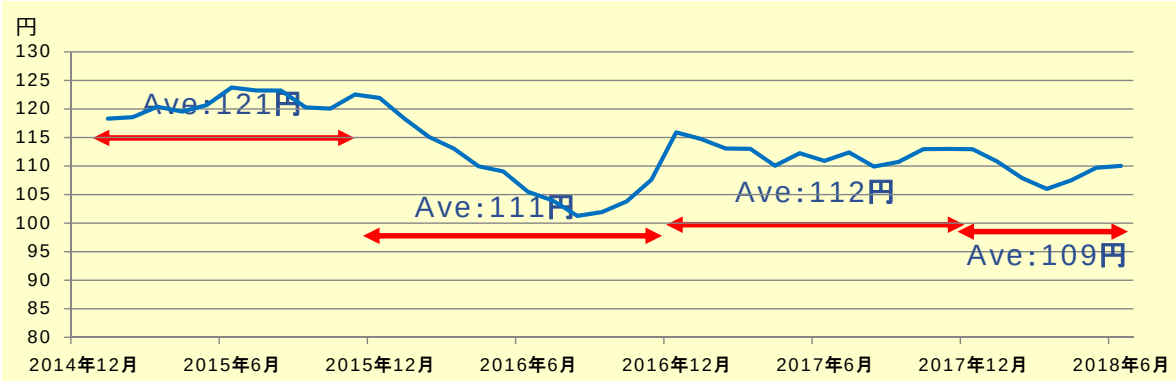
◆競合会社のパターン◆

- 1 海外企業の日本法人
- 2 大手企業の子会社・部門
- 3 商社

※矢野経済研究所調べ



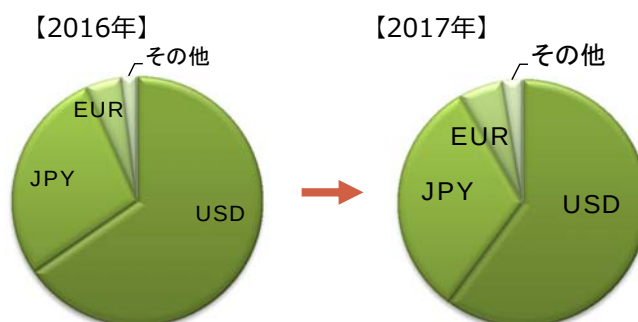
為替相場



- ・為替変動により利益に影響
(円安では仕入原価・コスト高)
- ・為替予約により為替変動リスクを軽減

平均為替レートの推移 (円/ドル)

2015年	2016年	2017年	2018年 (計画)
121円	111円	112円	115円



3. 2018年上期の取り組み成果と今後の取り組み

2017年からの取り組み（3ヶ年計画）

経営ビジョン

『生命科学の研究者に信頼される事業価値を高める』

重要課題

研究者から信頼を戴く

既存事業基盤の強化

新たな事業基盤の創出

企業価値の向上

2017年からの取り組み（3ヶ年計画）

既存事業基盤の強化

商社として

情報力

情報の即時発信
製品の性能
法令・納期

製品力

特長のある商品・サービス
適正在庫、納期短縮

提案力

課題解決型営業の強化
ユーザー密着型の
営業体制

メーカーとして

開発力

自社製品・サービス
産学官連携の強化

新たな事業基盤の創出

- 新規事業の創出 – 従来とは異なる成長分野を積極的に開拓
- 資本・業務提携 – 競争力の維持・強化、事業拡大、コスト削減

企業価値の向上

- 業務効率化
- 人事評価制度改革
- リスク管理
- CSR活動

札幌事業所の状況（2017年10月稼働）

①従来の初代細胞製造事業、②2016年に新たに加わったペプチド・抗体事業、③2017年より実施の鶏卵を用いたゲノム編集技術によるタンパク質製造、に加え、今後のさらなる事業の拡大に備えるため、開発・製造拠点の統合・拡張を実施。



札幌事業所の外観

- 集約移転による人材効率化
- ペプチド事業の開始、業務提携による事業拡大 →p.20
- 産総研、農研機構との共同研究成果（鶏卵をバイオリアクターとしたゲノム編集技術によるタンパク質の製造）を生かし、第一弾となる製品を製造開始 →P.21
- 自社ブランド製品・サービス開発の促進 →P.22

ペプチド事業の拡大

ペプチド合成事業

- 2016年12月より事業開始
- 新規にペプチド合成装置を導入
- 現在、当初目標を超える売上を達成しており、2018年以降も引き続き売上貢献を目指す



ペプチド合成装置

まずはじめに・・・

抗体作製サービス事業と連携させ、抗体の抗原となるペプチドを合成するサービスで基盤づくり

2017年12月

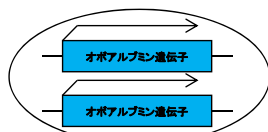
Proteomedix Frontiers社との業務提携により、AQUAペプチドの配列デザインから合成までの一貫サービスを開始

2018年6月

メスキュージェナシス社との業務提携により、**ペプチド創薬事業**で新たに事業展開

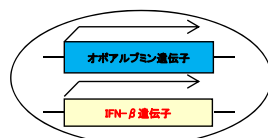
【技術の概要（インターフェロンβ）】

野生型ニワトリ細胞



オボアルブミンタンパク質
を大量に含む卵

遺伝子改変ニワトリ細胞



オボアルブミンタンパク質
のほか、
インターフェロンβタンパク質
も大量に含む卵

本技術の優位性

- ・ニワトリの遺伝子改変技術が特許技術
（産総研、農研機構の特許・特願）
- ・従来の方法（大腸菌や動物細胞系）に比べ、大量に安定して
作ることができる
- ・卵自体が無菌の培養装置のような役割を果たすため、高価な
培養プラント設備が必要なく低コスト
- ・養鶏技術は既に確立済

【事業の推移】

- 2016年～ 産総研・農研機構と共同研究（NEDO）
- 2017年8月 ヒト インターフェロンβ製造に関する
特許実施権を獲得
（NEDOプロジェクト終了後も産総研と引き続き
共同研究開発を継続）
- 2018年7月 当該技術がScientific Reportsに掲載
- 2019年～ 研究用試薬としてヒト インターフェロンβ
を商品化（予定）
- ・・・

ヒト インターフェロンβ（IFN-β）の大量製造の
成功・確立により、
遺伝子改変ニワトリを用いたタンパク質の製造技術
の優位性を示した。
今後は、IFN-βの他、量産することがメリットと
なるタンパク質を創ることを計画中。

2017-2018年の導入製品・サービスの一例

<エクソソーム研究分野>

- ウシ ミルクエクソソーム（2017年8月）、
その後ELISA・抗体をシリーズ化（同12月）
- ヒト エクソソーム測定キット（2018年2月）
- エクソソーム測定装置開発及び測定サービス

<周辺機器>

- HIENAIマットのリニューアル（2017年10月）

<顧客ニーズをとらえた受託サービスの導入>

- 遺伝子強制発現細胞株作製サービス（2017年9月）
- AQUAペプチド設計&作製サービス（2018年4月）
- ペプチド創薬サービス（同8月）

【エクソソームとは】

- 直径40～150nm程度の小胞
- 細胞から細胞の外に分泌され、血液などを介して遠く離れた細胞まで情報を伝える

【エクソソームの利用】

- エクソソーム内に治療用の薬剤を搭載し、標的細胞や臓器に薬剤を届けるDDSツールとしての応用が期待されている
- エクソソームの特徴を活用して病気の診断を簡単かつ確実にできる技術の研究・開発が進んでいる



HIENAIマット

商社かつメーカーとして研究者をサポート

3ヶ年計画を継続し、将来に向けた取り組みを展開。

将来のためにいまやるべきこと

- ✓ 既存の商社としての機能の品質を保ち、さらに向上させる
- ✓ 利益率の高い商品・サービスの比率を高める
- ✓ 「自らによるサービス+導入サービス」の比率を高める
- ✓ 「自らによる製品」の比率を高める（利益確保、為替に左右されない収益構造の確立）
- ✓ COSMO BIO USAをはじめとする海外販売の拡大 他

商品検索システムを2018年度内にリニューアル予定

4. 決算の概要および業績予想について

www.cosmobio.co.jp

連結決算対象会社について

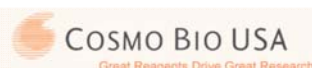
① ビーエム機器株式会社（2010年より連結開始）



事業内容：ライフサイエンス研究用の機器類、消耗品の輸入および国内販売

コスモ・バイオが研究用試薬を、ビーエム機器が研究用機器・器材・消耗品を扱うことで、試薬と機器両面からの研究サポートを実現。

② COSMO BIO USA, INC.（2018年より連結開始）



事業内容：北米を中心とした新規商品・仕入先の探索および仕入販売・販売促進

コスモ・バイオの仕入先（北米）の探索のほか、コスモ・バイオの輸出品、COSMO BIO USA 独自の仕入先商品の米国ユーザーへの販売を行う。

連結業績ハイライト

売上高

前年同期比：増収 予想比：減収

- 2016年の大手仕入先との契約終了による売上減を取り戻す計画で第2四半期累計予想を3900百万円（前年比5.4%増）としたが、計画未達。前年比では2.7%増。
- 通期では計画値の修正なし。

利益

前年同期比（経常利益）：減益 予想比：増益

- 前期に計画外で投資事業組合からの出資金分配益が計上されており、今期は前年同期比で減益。
- 販管費の節減に努めた結果、予想比は増益となった。
- 為替差益／差損はほとんど発生せず。

連結損益計算書

(金額単位: 百万円)

	2017年 第2四半期 累計	2018年 第2四半期累計		前年同期比 増減	当初予想比 増減	
		当初予想	実績			
売上高	3,699	3,900	3,798	2.7%	△2.6%	注1
売上総利益	1,359	-	1,389	2.3%	-	注2
販管費	1,152	-	1,156	0.4%	-	
営業利益	206	155	233	13.0%	50.3%	注3
経常利益	399	200	285	△28.6%	42.6%	注4
親会社株主に帰属 する四半期純利益	264	125	183	△30.6%	47.0%	

注1 2016年度に大手取引先との契約終了が複数件あり、マイナスとなる売上分を他商品の売上で充当する計画であったが、計画未達。

注2 為替は計画115円/ドルに対し、平均109円/ドル。円高による増益効果はあったものの、大口取引で利益の少ない取引があった結果、粗利率は36.7%から36.6%へとほぼ横ばい。

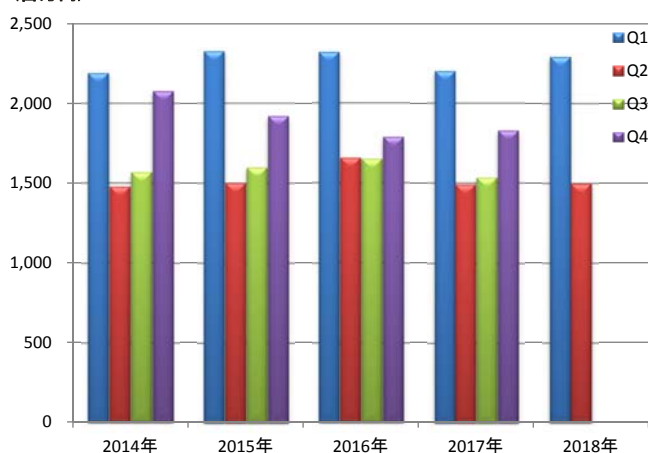
注3 為替効果、利益率の高い商品・サービスの販売増、販管費の節減（対計画）等により、各利益は当初予想を上回った。

注4 前年の営業外収益に**出資金分配益+141百万円**が計上され（計画外）ており、今期経常利益および純利益は前年比減益となった。

四半期別動向（売上高、経常利益）

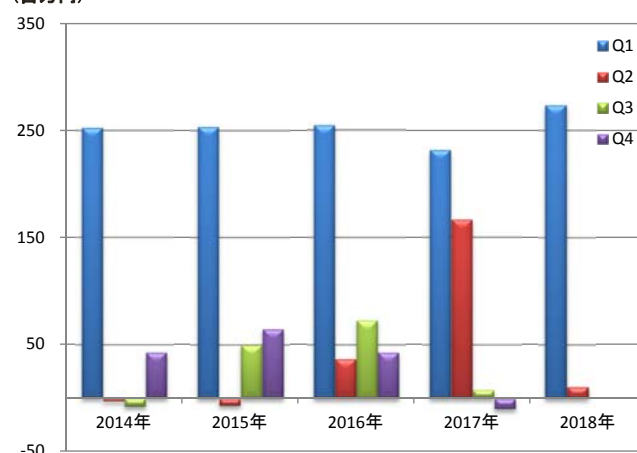
売上高

(百万円)



経常利益

(百万円)



【売上高】従来の四半期別売上高の傾向は、Q1で最も多く、Q2以降階段状に上がってくるパターン。近年、政府予算の一部繰り越しができるようになり、この傾向も緩やかになっている。

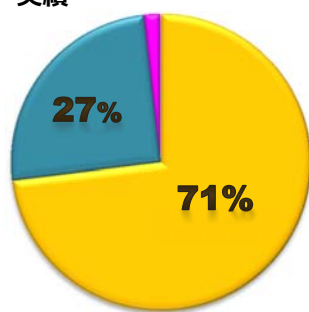
2016年下期に複数仕入先との取引終了があり2017年は苦戦。

【経常利益】従来の四半期別経常利益の傾向は、Q1で最も利益を稼ぎ出す構造。

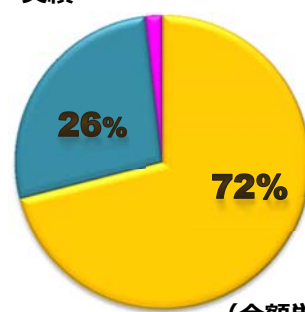
2017年Q2は計画外の営業外収益が計上され（投資事業組合運用益+141百万円）利益大幅増。2017年下期はシステム投資の減価償却、在庫評価の適正化で利益減少。

商品分類別連結売上高

2017年第2四半期累計
実績



2018年第2四半期累計
実績



(金額単位：百万円)

連結	2017年第2四半期累計実績		2018年第2四半期累計実績		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
研究用試薬	2,625	71.0%	2,751	72.4%	125	4.8%
機器	1,005	27.2%	978	25.7%	△27	△2.7%
臨床検査薬	68	1.8%	69	1.8%	1	2.1%
合計	3,699	100.0%	3,798	100.0%	99	2.7%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年12月末	2018年6月末	増減額
資産合計	8,126	8,263	137
流動資産計	5,143	5,326	182 注
固定資産計	2,982	2,937	△44
負債純資産合計	8,126	8,263	137
負債計	1,288	1,269	△19
純資産計	6,838	6,994	156
自己資本比率	78.5%	79.0%	

注 流動資産の増加：現金及び預金＋700、有価証券償還△100

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2017年 第2四半期累計	2018年 第2四半期累計	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	332	666	334	注1
投資活動によるキャッシュ・フロー	257	30	△226	注2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△73	△49	23	
現金及び現金同等物の増加額	506	652	145	
現金及び現金同等物四半期末残高	2,154	2,083	△70	

注1 たな卸資産の減少で+180百万円、税金支払いの減少で+68百万円

注2 投資事業組合からの分配金による収入 △199百万円

2018年12月期の連結業績見通し

(単位：百万円)

	17/12月期 実績	18/12月期 予想	対前年比	
			増減額	増減率
売上高	7,068	7,500	431	6.1%
営業利益	193	195	1	1.0%
経常利益	397	245	△152	△38.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	237	150	△87	△37.0%

平均為替レート	17/12月期 実績	18/12月期 予想
円/USドル	112円	115円

2018年12月期より、海外子会社であるCOSMO BIO USA, Inc.を連結の範囲に含めます。

売上高 : 積極的な営業活動、自社製品・サービスの売上増により、一昨年水準の売上への回復を見込んでおります。

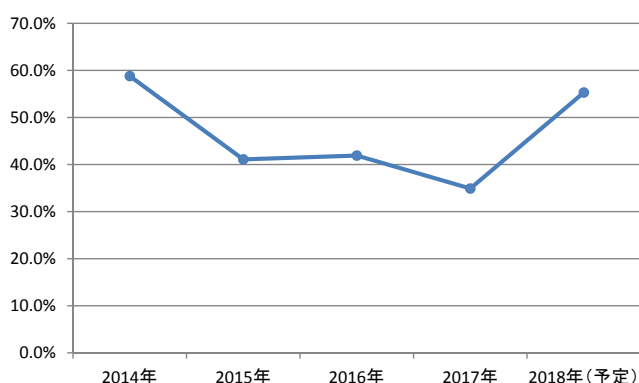
営業利益 : 仕入原価の増加を見込み、また販管費においてIT投資等を積極的に実施する予定です。

配当について

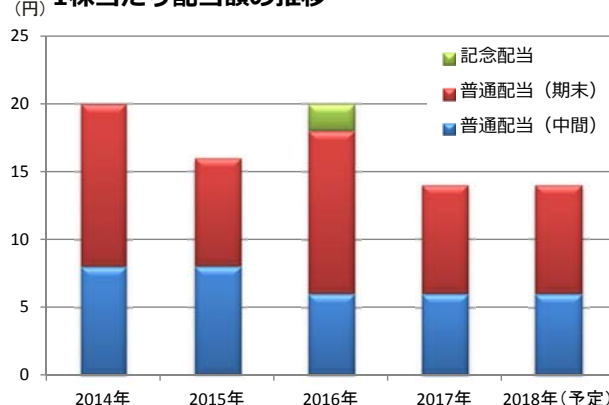
	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2018年 12月期	6円	8円（予定）	14円（予定）

2018年は、2017年と同額を見込んでおります（連結配当性向（予想）は55.3%）。

連結配当性向の推移



1株当たり配当額の推移



ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
コスモ・バイオ株式会社 総務部
ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

以下、ご参考資料です

参考資料

主な連結経営指標等の推移

	2013年 平成25年	2014年 平成26年	2015年 平成27年	2016年 平成28年	2017年 平成29年
売上高(百万円)	7,050	7,235	7,357	7,427	7,068
経常利益(百万円)	444	285	373	483	397
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	313	201	230	254	237
純資産額(百万円)	6,797	6,532	6,378	6,581	6,838
総資産額(百万円)	8,277	8,161	7,790	7,934	8,126
1株当たり純資産額(円)	1,064.59	1,020.56	1,003.87	1,034.90	1,076.35
1株当たり当期純利益(円)	52.82	34.02	38.89	42.93	40.15
自己資本利益率(%)	5.4	3.3	3.8	4.2	3.8
総資産経常利益率(%)	5.8	3.5	4.7	6.2	5.0
株価収益率(倍)*	45.4	43.9	27.6	29.2	27.9
配当金額(単体)(円)	20	20	16	18	14
配当性向(連結)(%)	37.9	58.8	41.1	41.9	34.9
純資産配当率(連結)(%)	2.1	1.9	1.6	1.8	1.3

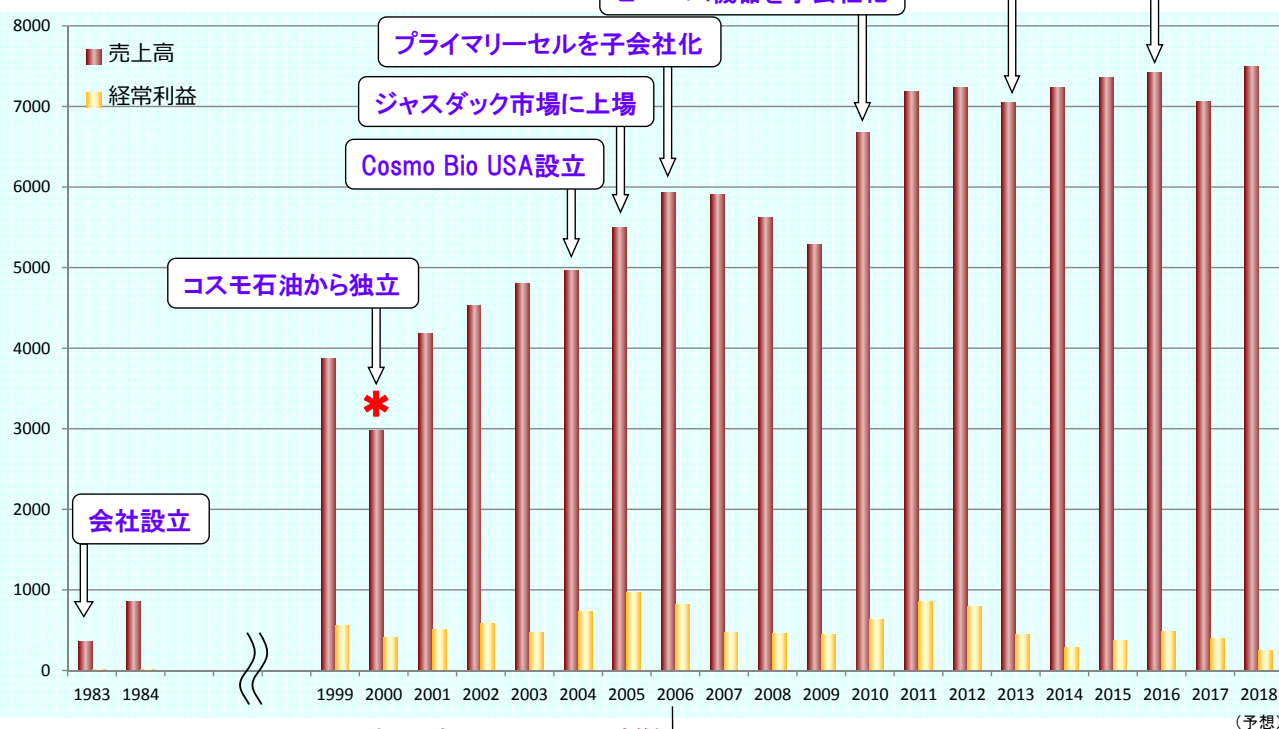
* 株価は12月期の末日終値

参考資料 当社の歩み



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

(単位:百万円)



© 2018 Cosmo Bio Co., Ltd.

37

参考資料 株式の状況 (2018年6月末現在)



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

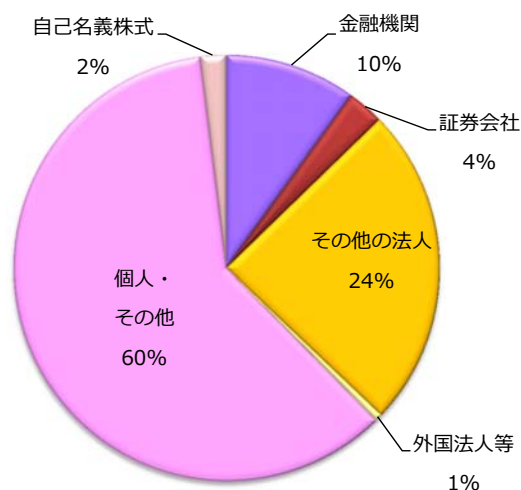
発行可能株式総数	18,361,600株
発行済株式の総数	6,048,000株
自己株式数	120,000株

株主数 : 5,546名

大株主の状況

株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43%
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 コスモ石油口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	576,000	9.72%
コスモ・バイオ従業員持株会	158,900	2.68%
株式会社ヤクルト本社	100,400	1.69%
新日本空調株式会社	89,600	1.51%

所有者別株式分布状況



© 2018 Cosmo Bio Co., Ltd.

38

『公開講座応援団』

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています



『世界一いきなり科学広場in宗像』

【講座の一例】



『消化管体験ツアー』

食道から大腸まで、子供が潜り抜けられるトンネル構造模型です



『iGEM生物ロボットコンテスト 参加日本チームへの支援』

米国マサチューセッツ工科大学で毎年行われている「生物ロボット」コンテストに参加する日本の大学チームを、資金援助を通して応援しています

『北海道大学』

【参加されたチームの一例】



『Science Signaling』



米国科学振興協会が発行する“Science Signaling”の日本語サイトを当社ウェブ上で運営しています

